

7 感染症対応実践学寄附講座

1. 活動概要

【スタッフ一覧】

● 教授(兼任) 松岡 雅雄 (血液・膠原病・感染症内科学講座)

日本血液学会評議員、日本癌学会評議員、日本ウイルス学会評議員、日本HTLV-1学会理事、日本学術会議連携会員

● 准教授(兼任) 中田 浩智 (感染免疫診療部)

日本内科学会認定内科医、インфекションコントロールドクター(ICD)、抗菌化学療法指導医、日本エイズ学会認定指導医、日本感染症学会認定感染症専門医、日本血液学会認定血液専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会認定血液指導医、日本感染症学会認定感染症指導医

● 特任講師 岩永 栄作

日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定血液専門医、日本血液学会認定血液指導医、日本内科学会総合内科専門医

● 特任助教 古田 梨愛

日本内科学会認定内科医、日本医師会認定産業医、日本血液学会認定血液専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会認定血液指導医

● 特任助教 岡林 比呂子

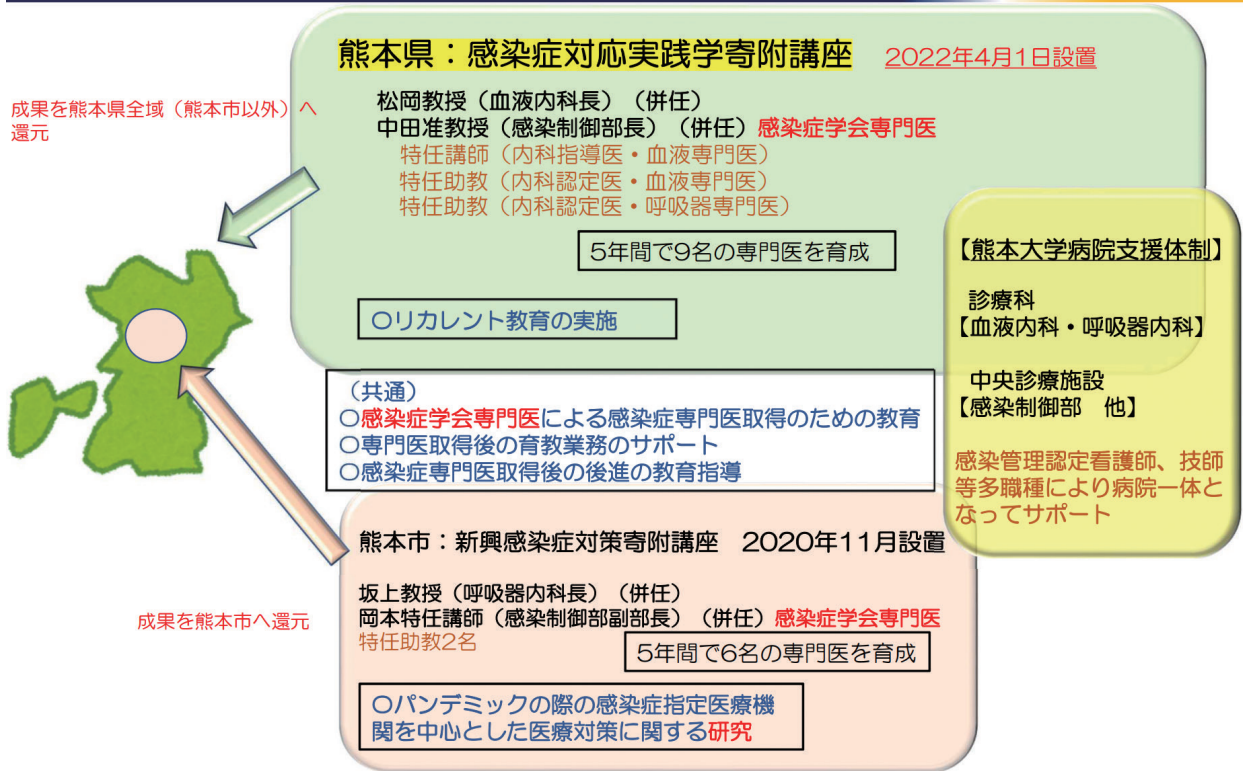
日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、難病指定医、身体障害者福祉法指定医

◆ 寄附講座設置概要

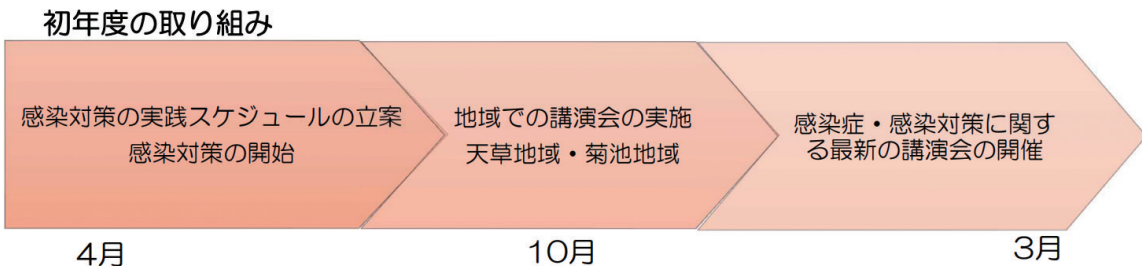
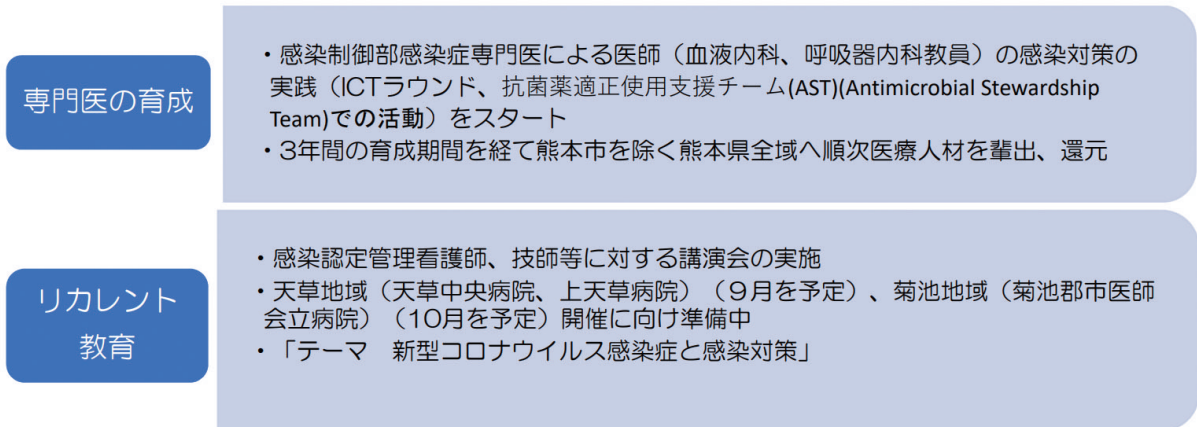
現在大流行している新型コロナウイルス感染症をはじめ、多くの新興ウイルス感染症が出現し、人類にとって大きな脅威となっている。新型コロナウイルス感染症で実感されたように、人々の移動の高速化により一箇所で発生した感染症が瞬く間に全世界に拡がる時代となっている。

新興感染症や災害時の感染症に対応できる幅広い知識、経験を有する医師・メディカルスタッフが極めて少ない状況であり、これらの感染症に対応できる人材の育成は喫緊の課題となっている。

本講座においては、熊本県全域で感染症に対応できる医療体制の連携・強化を図ることを目的として、熊本大学病院の感染症専門医を中心に、血液内科や呼吸器内科などの関連診療科及び感染制御部などの協力を得て、病院一体となって、講座運営、教育を行うこととしている。プランとしては、5年間で9名の感染症専門医を育成することとしており、先に設置された市の寄附講座においては「熊本市」へ、県の本寄附講座においては、「熊本市以外の熊本県全域」へ、その育成した人材を送り込むこととしている。併せて、熊本県内の感染認定管理看護師、技師等に対する講演会の開催等、リカレント教育の実践により、県内各地域における医療現場の最前線に立つ医療従事者の人材育成、ひいては、その地域のゆるぎない医療体制の確立へと繋げていければと考えている。熊本大学病院の理念には、「高度な医療安全管理によって、患者本位の医療を実践し、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献すること」がうたわれており、これらの課題の解決に向けて貢献することは、社会的使命の一つであると考え

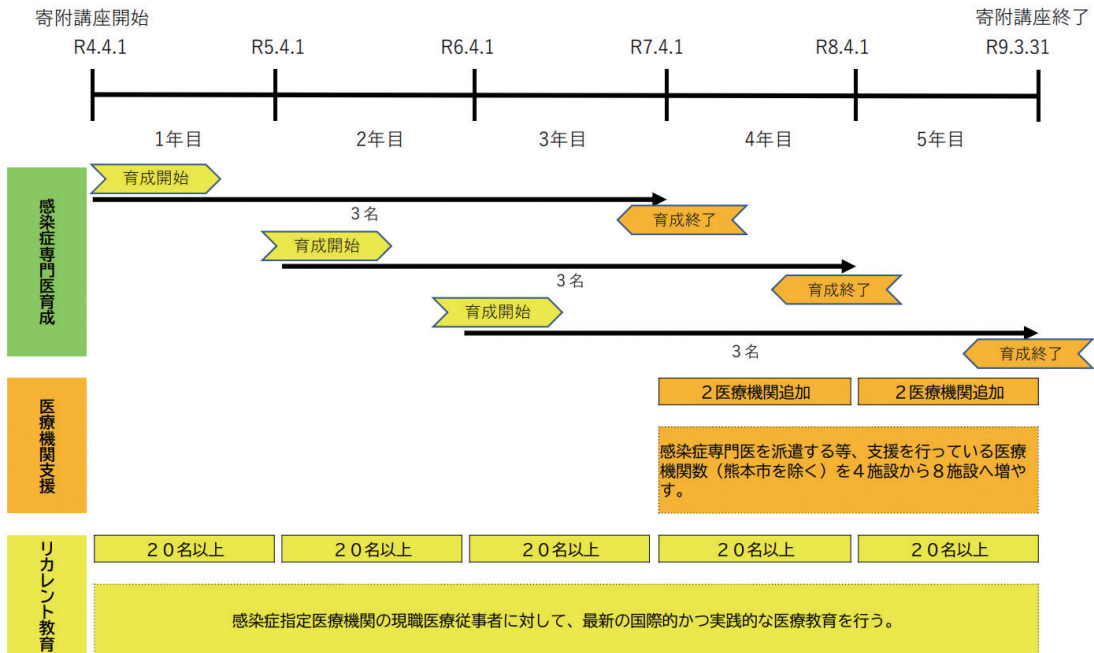


感染症対応実践学寄附講座の4月からの取り組みについて



感染症対応実践学寄附講座

【熊本県／感染症対応実践学寄附講座】 ※イメージ図



II 熊本県内における感染症専門医および施設認定の状況

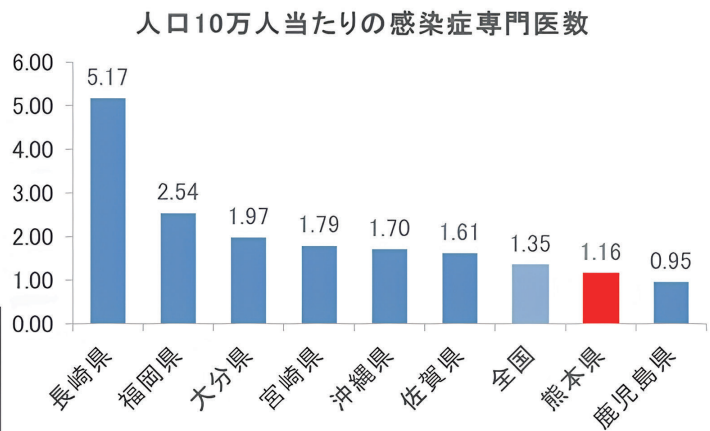
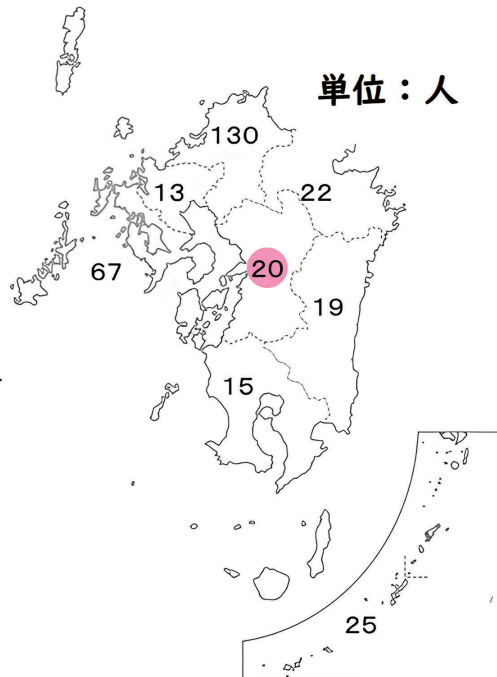
熊本県の感染症専門医の数は全国平均を下回っており、研修を実施できる認定研修機関も限られている。専門医数の1/3は医師経験40年以上であり、世代交代への対応が求められている。人口の約半数を占める熊本市ですら、感染症指定医療機関が1カ所(8床)しかなく、急激な感染症の急増に指定医療機関だけで対応するには限界が懸念される。



【参考：九州各県の専門医認定者数】

福岡県 131、佐賀県 12、長崎県 67、熊本県 20、大分県 22、宮崎県 19、鹿児島県 15 沖縄県 25

【県内の「感染症専門医」数 令和4年（2022年）4月現在】



2. 年間活動実績

月	活動内容
通年	<p>【新型コロナウイルス診療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症患者受け入れ、(大学病院 ICU) ・中等症患者受け入れ、(大学病院西病棟 8階) <p>【一般感染対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗菌薬適正使用支援チーム(AST)(Antimicrobial Stewardship Team)会議：毎週火曜日 ・院内感染対策チーム(Infection Control Team:ICT)ラウンド：毎週木曜日
9月	臨床実習入門「感染対策」(学生向け実習指導)
10月	感染症対応実践学寄附講座セミナー
1月	感染症セミナー
2月	感染症対応実践学寄附講座セミナーその2

3. 活動報告

【セミナー等の開催】

感染症対応実践学寄附講座の活動目標として医療者、行政担当者も含めた多職種を対象としたセミナーを年2回以上企画・実施している。令和4年度の開催実績は以下の通りである。

- 令和4年度前期(令和4年10月25日)：天草中央総合病院
「新型コロナウイルス感染症の取り組みと今後の課題」
- 令和4年度後期(令和5年1月21日)：熊本城ホール+webハイブリッド開催
「新型コロナウイルス感染症の現状と対策」
- 令和4年度後期(令和5年2月21日)：天草中央総合病院
「新型コロナウイルス感染症の取り組みと今後の課題、その2」

<各セミナーの実施概要>

- ◆ 令和4年度前期(令和4年10月25日)：天草中央総合病院
熊本大学病院 令和4年度 感染症対応実践学寄附講座セミナー
「新型コロナウイルス感染症の取り組みと今後の課題」

開催概要：

令和4年10月25日に感染症対応実践学寄附講座セミナーを天草総合中央病院で開催した。新型コロナウイルス感染症をテーマに2演題の講演があり、岩永特任講師によりトピックス「病院勤務中でのコロナ対策」が、中田准教授より「新型コロナウイルス感染症—地域で考える感染対策—」として国内第8波の拡大が危惧されるなかでの最新知見についての解説がなされた。参加人数は100名で、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士など周辺医療機関からの参加も含め多職種の聴講があった。

天草中央総合病院学術講演会
新型コロナウイルス感染症の取り組みと今後の課題

日時 **2022年 10月25日(火) 16:30-17:15**
天草中央総合病院附属老人保健施設 5階大会議室
参加費無料

座長：天草中央総合病院院長 芳賀 克夫

<p>講演 1</p> <p>「病院勤務中でのコロナ対策」</p> <p>熊本大学大学院生命科学研究部 血液・膠原病・感染症内科学講座</p> <p>特任講師 岩永 栄作先生</p>	<p>講演 2</p> <p>「新型コロナウイルス感染症—地域で考える感染対策—」</p> <p>熊本大学大学院生命科学研究部 血液・膠原病・感染症内科学講座</p> <p>准教授 中田 浩智先生</p>
--	---

この度、学術講演会を下記のとおり開催させて頂く運びとなりました。コロナの感染拡大状況が続いておりますが、開催を予定しております。ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

※お車でお越しの方は当院駐車場をご利用下さい。

医療従事者のみでの講演会となります

お問合せ先 TEL 0969-22-0011 FAX 0969-24-2105 総務企画課 松森・中俣 E-mail soumu@amakusa.jcho.go.jp



◆令和4年度後期：(令和5年1月21日)：天草中央総合病院
 熊本大学病院 令和4年度 感染症対応実践学寄附講座セミナー
 「新型コロナウイルス感染症の取り組みと今後の課題その2」

開催概要：

令和5年1月21日に第2回感染症対応実践学寄附講座セミナーを天草中央総合病院にて開催した。ウイルス感染症をテーマに2題の講演があり、古田特任助教によりトピックス「新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行にむけて」としてコロナ国内第8波の拡大およびインフルエンザ同時拡大が危惧されるなかでの最新知見についての解説がなされた。また安永准教授からは「ヒトT細胞白血病ウイルス1がT(HTLV-1)に関する最近の話題」として天草地域に多いレトロウイルス感染症であるHTLV-1について最新の知見が紹介された。参加人数は計80名で、医師、薬剤師、看護師、獣医師、介護職、臨床検査技師など多職種の聴講があった。



◆令和4年度後期セミナー
 熊本大学病院 令和4年度 感染症セミナー

開催概要：

令和5年1月21日に「熊本大学病院 令和4年度 感染症セミナー」を熊本大学新興感染症対策寄附講座と共催し、熊本城ホールでの現地開催およびWebでのハイブリッドセミナー形式にて開催した。『地域を守る感染症対策』をテーマに2題の講演があり、甲斐 豊先生(阿蘇市病院事業管理者 兼 阿蘇医療センター院長)からは『新型コロナウイルス感染症との3年を振り返って～阿蘇医療センターの取り組み～』、そして吉村 和久先生(東京都健康安全研究センター 所長)からは『新型コロナウイルス感染症に對峙して～東京都健康安全研究センターの取り組み』とのご講演があった。コロナウイルス対応について地域医療機関と中枢都市の検査機関という異なった立場から最新知見についての解説がなされた。参加人数は133名で、医師、薬剤師、看護師、獣医師、介護職、臨床検査技師など多職種の聴講があった。参加者アンケート結果も概ね好評であった。

熊本大学病院 令和4年度 感染症セミナー
地域を守る感染症対策
 ～熊本からの発信～

日時 令和5年1月21日(土) 13:30～16:10
場所 熊本城ホール 3F 大会議室A1 (熊本市中心区桜町3-40)

本セミナーは会場参加とWEB配信を選択いただけるハイブリッド開催となります

対象者 感染症対策に関わる医師、看護師、社会福祉士、
 介護福祉士、事務職員等
 ※一般の方もご参加いただけます。

参加無料
 (事前申込制)
 <定員>
 会場参加 100名
 WEB参加 200名

プログラム

はじめに 『熊本県感染症対応実践学寄附講座について』
 (13:30～13:50) 松岡 雅雄
 熊本大学大学院 生命科学研究部 血液・膠原病・感染症内科学講座
 熊本大学病院 感染症対応実践学寄附講座 教授

講演1 『新型コロナウイルス感染症との3年を振り返って
 ～阿蘇医療センターの取り組み～』
 (13:50～14:40) 講師: 甲斐 豊
 ※10分休憩 阿蘇市病院事業管理者 兼 阿蘇医療センター院長

講演2 『新型コロナウイルス感染症に対峙して
 ～東京都健康安全研究センターの取り組み～』
 (14:50～15:40) 講師: 吉村 和久
 東京都健康安全研究センター 所長

質疑応答 (15:40～16:10) 参加された皆様からの質問に講師がお答えいたします。

主催: 熊本大学病院 感染症対応実践学寄附講座/新興感染症対策寄附講座
 ※感染症対応実践学寄附講座は熊本県、新興感染症対策寄附講座は熊本市の寄附により設置された寄附講座です。

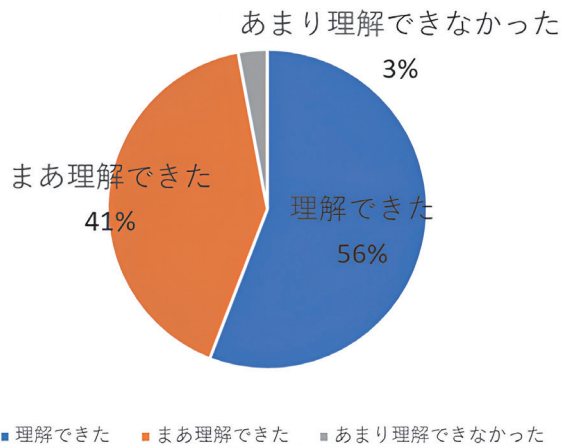
参加申し込み方法は裏面をご参照ください



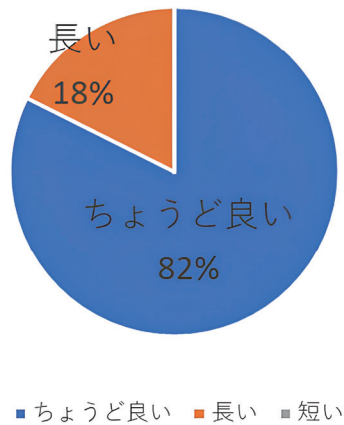
配信動画URL

<https://www.youtube.com/watch?v=irb08bvdA9E>

セミナーの内容について



セミナーの開催時間



<意見・感想等>

- 阿蘇の医療の最新の進展の速さ。講演 2 では、変異株の種類が多さ。
- とても参考になりました。
- 大変興味深く拝聴させて頂きました。今後も継続して参加させて頂きたいと思います。
- 開催していただきありがとうございました。研修についても web で開催していただく方が参加しやすいと思います。
- 地域での体制構築と地方衛生研究所の話はどちらも興味深く拝聴いたしました。コロナの全体像をつかむには、この 2 つの講演については視点が異なるのですが、かえってよかったように思います。
- 先生方のお話は大変勉強になりました。明日からの感染管理に役立てたいと思います。
- 連携の重要性が強調されてよかったです。自分の地域でどうするか？は課題ですが。
- 病院や大学が必要性を説いて頂き、市民教育や行政を動かして頂けるとありがたいです。
- たいへん充実した内容だったと思います。コロナ禍の今後についての討論がほしいところでした。
- 今後、沢山の感染症が出るであろうことを講師の先生の話で身にしみて感じる事ができてよかった。
- 職場では、ワクチン接種をする人も少なく、高齢者に接する仕事なのに残念に思っています。
- 少し専門的に感じた。
- セミナーは、実際の病院での発生時の対応、課題、認定看護師の活用、情報共有等の事例が多かったので、今後の事業所運営の参考になりました。また、質疑応答では、5 類への移行後の影響、検査のタイミング、ワクチン接種や住民への発信の必要性等 多くの知識を得ることが出来ました。
- 新型コロナウイルス感染症は、現在もこれからも続いていくことなので、感染症対策について幅広くお話しをお聞きできてよかったです。これから新しい感染症が出てきたときにも役に立つ内容だったと思います。
- 甲斐先生:ジョインというアプリを始め院内の感染対策に驚きました。阿蘇医療センターなら安心して働けると感じました。ぜひ他の病院や施設にその情報が伝わると良いと思いました。吉村先生:オミクロン株の変異株の同時進行の説明を興味深くお聞きしました。HP を拝見しましたが、その情報をすぐに見つけられませんでしたので、どこか分かりやすいところに掲載いただきたく希望しております。
- コロナ対応のようなこれまで我々が経験したことがない大きな課題への対応の際、特に初期対応の重要性、それからあまり報道されない地衛研などの対応、変異株対応など興味深かった。熊本地震への対応、5 疾病、5 事業への地域の拠点病院としての取組、工夫など大変参考になった。特に病院の災害に向けた準備の重要性を痛感しました。また、「情報共有」の重要性も改めて痛感しました。
- 人の医療体制については全くの素人なので、良い勉強になった。今後も企画があれば参加したい。
- 地域医療、二次医療における新型コロナウイルス感染対策への取組での課題やそれに対する県初のシステム導入があり、情報共有の方法や住民への教育、医療人の育成等多面的な進化がっていると感じた。
- 地域を守るために法律や組織の整備から市民講座での広報活動に至るまで様々な取組を実施するためにご尽力下さっていることに深く御礼申し上げます。感染症対策として情報共有が重要であることを理解することができました。
- 感染症への対応の難しさを感じました。情報公開の必要性も感じました。知り合いの高齢の感染者が救急車を呼んだものの 30 件の病院に拒否されたと聞いています。
- 地域医療、中央での取組がよく理解でき有意義なセミナーでした。
- 感染管理認定看護師の大きな働きなど専門分野のスペシャリストの育成が喫緊の課題であることがよく分かった。
- 院内のことだけでなく、地域でのお話が聞けて大変参考になりました。
- 質疑も含めリアルタイムな内容で興味深かった。
- 阿蘇医療センターの甲斐先生の取組、多岐にわたり、前向きなマインドにあふれていて大変参考になりました。
- 2 講演共に大変素晴らしく多くの学びがありました。ありがとうございました。初回のセミナーの演者としてお二人は適任だったと思いました。